

令和元年度 勝山城・袋田遺跡発掘調査



今回の調査位置



今回の調査結果

勝山(袋田)城は、天正 8 年 (1580) に柴田勝安が北袋の一向一揆を平定して袋田村に築城し、居城としました。

その後一度は廃城となりましたが、元禄 4 年 (1692)、小笠原貞信が勝山藩に移り、勝山城の城下町が計画されました。宝永 6 年 (1709) から築城が始まり、文政 10 年 (1827) にようやく完成しました。

その後、明治 4 年 (1871) に廃城となり、都市計画などで石垣や土塁、堀など遺構もことごとく失いました。

今回の調査で、明治時代の層の下には焼土層が堆積していたことが分かり、明治 29 年の大火の時の層と考えられます。

また、江戸時代中～後期ごろの層では、石垣が 2 列見つかり、手前の石垣が当時の七里壁に該当すると想定すると、調査区の東半分は 1841 年に創設された成器堂の敷地内と考えられます。

調査区全景 西から

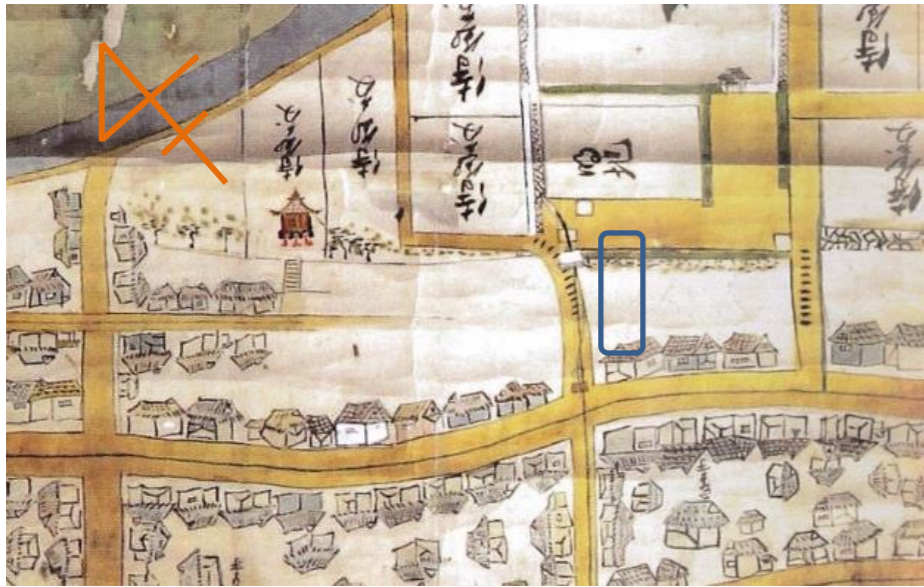


しちりかべ
七里壁

勝山市の中心市街地をほぼ南北に縦断する高さ 5~6m の段丘崖の一部で、江戸時代には、七里壁を境に一段高い段丘面に武家屋敷が、低い段丘面には町屋・寺院が配置され城下町が形成されていました。

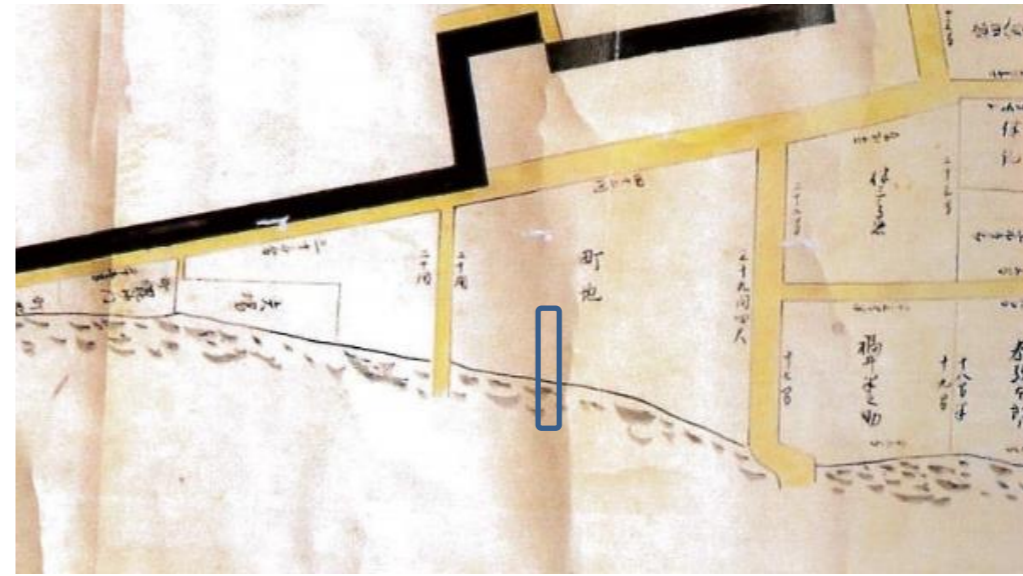


七里壁 南西から

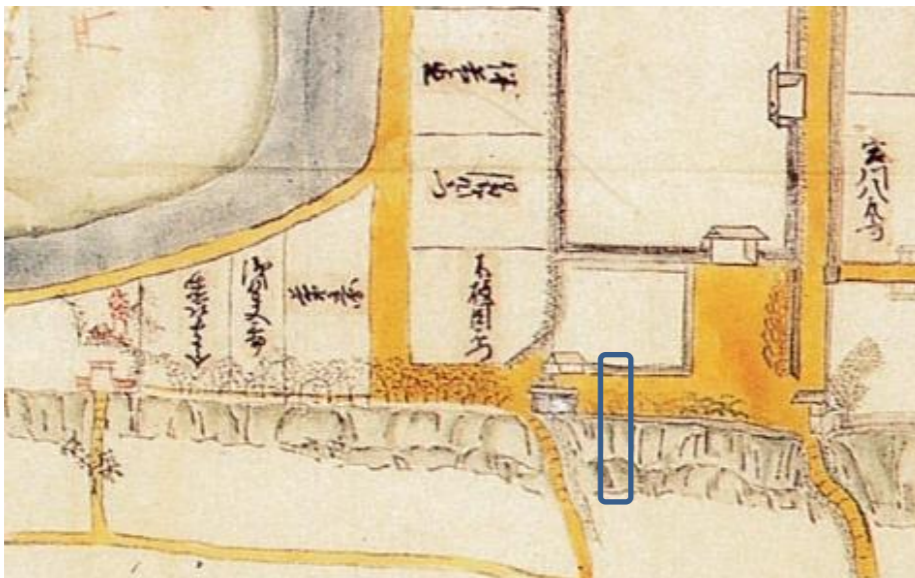


調査区

元禄勝山城下絵図
17世紀末～18世紀初め



天明寛政時代勝山
1789（天明9年）



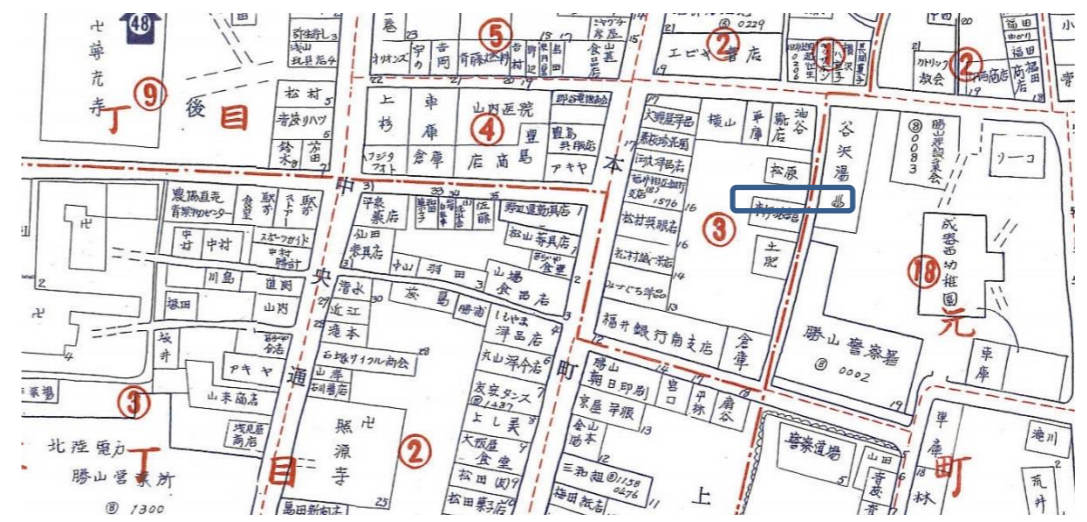
侍屋敷割絵図
17世紀末～18世紀初め



幕末勝山之図
幕末～明治10年



勝山町藩治時代地図
18世紀中頃



昭和44年の地図
参考文献 「城下絵図に見る勝山町の変遷」 平成25年 山田雄造